

予報期間 2月15日から2月21日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 17日は、高気圧が日本の東へ移動する。前線が東シナ海から日本の南へのびる。
- 18日から19日は、低気圧が日本海から千島近海へ進み、前線が北日本付近を通過する。大陸の高気圧が東シナ海へ移動する。
- 20日は、低気圧はオホーツク海に留まる。高気圧が日本の南へ移動する。
- 21日は、低気圧がオホーツク海に留まり、別の低気圧が中国東北区に進む。

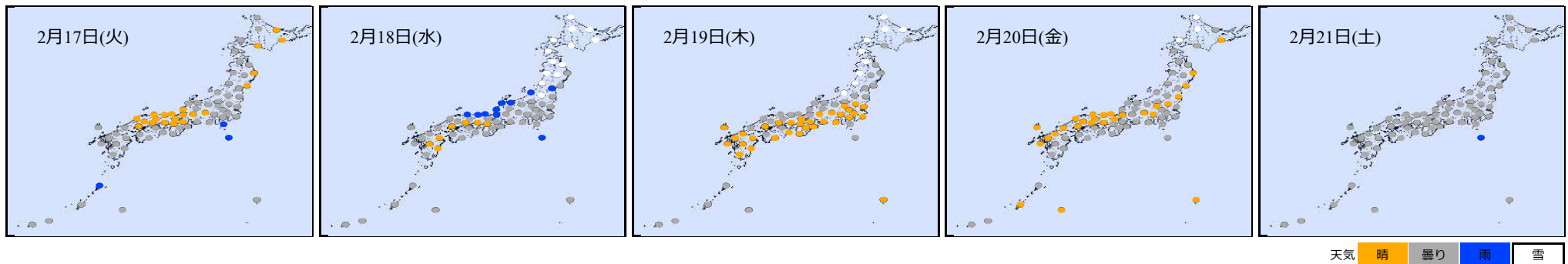
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

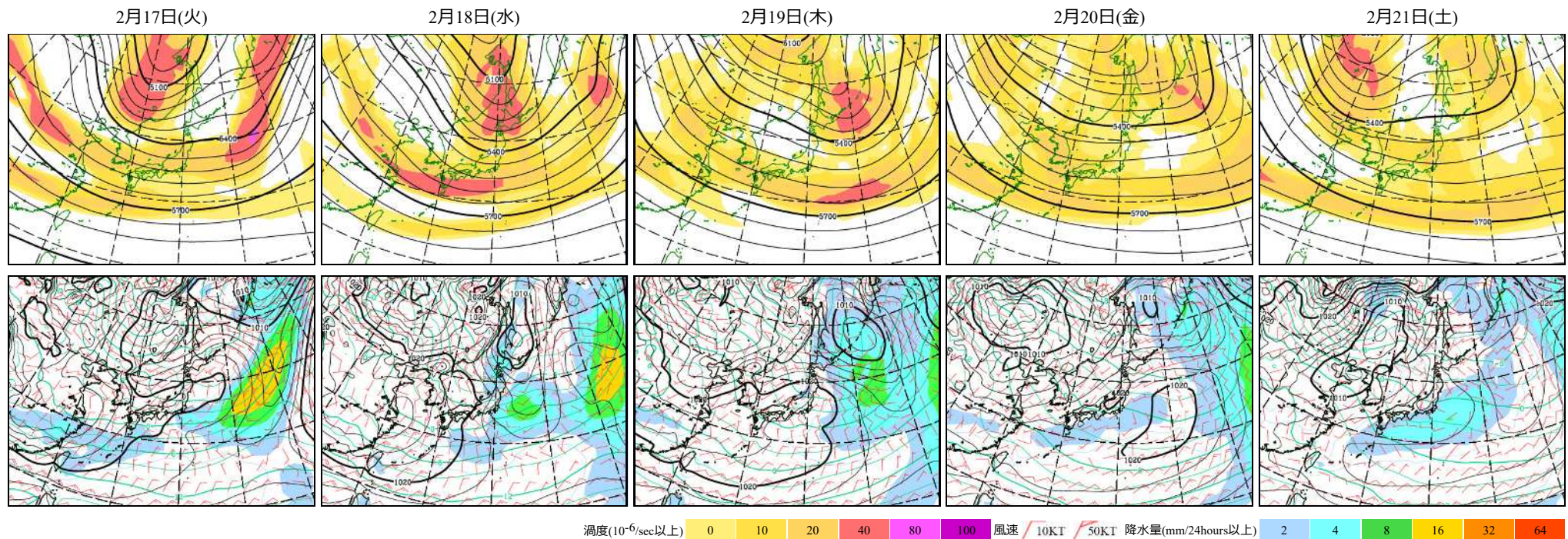
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

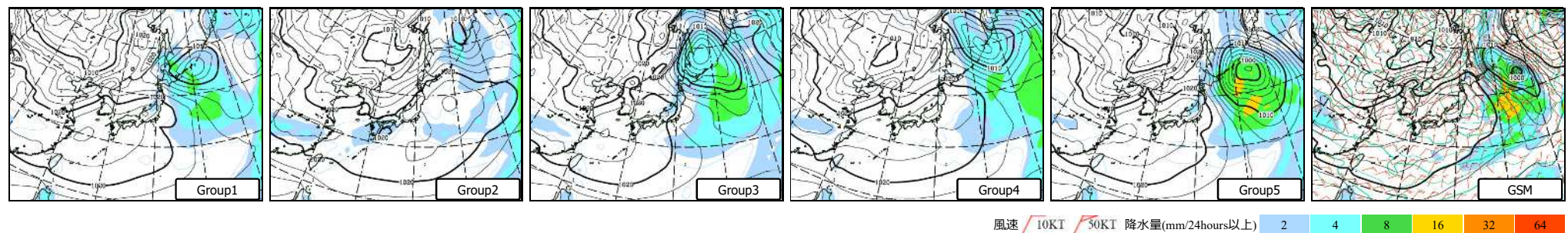


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、17日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月19日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日は、大陸の高気圧の西日本付近への張り出しが強くなった。18日から19日にかけて、サハリン付近から千島近海に進む低気圧が弱くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、17日は、東日本から西日本にかけての太平洋側で小さくなった。18日は、東日本と西日本で小さくなった。19日は、北日本で小さくなった。
- スプレッドは期間後半は大きく、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。
- 17日から19日にかけて、日本海の気圧の谷から低気圧が発生し、サハリン付近を通過して千島近海もしくは千島の東に進むことは、各モデルでそろってきた。20日以降の気圧配置はモデル間の差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。